



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第44期第4号

2025年3月13日
発行者:小泉基



礼拝とディアコニア

小泉 基

北海道特別教区のあゆみも、45年目を迎えるようとしています。コロナウイルスに翻弄された2020年～2022年を経て、広域兼牧体勢スタートからの2023-2024年の2年間、わたしたちはディアコニアの学びに焦点をあてて、教区のあゆみを続けました。教区が人件費自給を達成したこのタイミングで、わたしたちは教会の原点に立ち戻りたいと願ったのです。神さまの先行する恵みを強調するルーテル教会にあって、わたしたちが“安価な恵み”に安住するのではなく、その神さまからの恵みを積極的に受けとめ、生かされる教会であることの証しとして、ディアコニアの働きは最もルーテル教会らしい働きであるといえるからです。そしてこの学びは、決して1年や2年の学びによって理解されるものではなく、これが、わたしたちの教区の文化となるまで、わたしたちが息をするようにディアコニアの働きに生きることが出来るようになるまで、続けられていく学びであろうと思います。とはいえ、それはまだ手にしていないものというわけではなく、すでにさまざまな形で教区の諸教会の中に息づいています。そのことを、昨年の秋の一泊修養会で、いまいちど確認しあうことが出来たのではなんでしょうか。この修養会は、昨年の教区のあゆみのなかで、ひととき大きな恵みのひとときとなりました。

そして、わたしたちの信仰生活の中で、この神さまの先行する恵みを体現するのは、なんといっても礼拝です。わたしたちは礼拝の恵みによって活かされ、み言葉と聖餐によって慰められ、励まされて、世に派遣されていくからです。ですから、この礼拝をどのように豊かに守っていくことが出来るのか。牧師はそのために、時間をかけて聖書と向き合い、誠実にみ言葉を伝えようと身を削ります。また会衆も礼拝に参加し、この礼拝に奉仕し、神さまがくださるこの礼拝を、牧師とともに作りあげていくのです。こうして豊かな礼拝を守ることが出来るのが、わたしたちのディアコニアの働きをも担保するものとなっていきます。

今年の教区は、礼拝と奏楽についての学びを計画しています。ともに礼拝をつくりあげ、わかちあう群れとして、ルーテル教会の礼拝について理解を深め、ともどもに、さらに豊かな礼拝に与ってまいりたいと思います。



各教会の近況報告

【函館教会】

秋からのことを振り返ると、まず初めに思い浮かぶのは、9月1日(日)に遺愛生の掛端あいりさんが受洗したことです。遺愛生から受洗者が出ることは、函館教会に与えられている種まきの働きが実っているようで嬉しいことです。私にとっては、初めての授洗。洗面器で何度かイメトレしたのは内緒です。今年度は遺愛から2人の高校3年生が教会に通い続けてくれました。春からは、望んでいた大学へと進学していきます。なんと2人ともおなじ大学。助け合い、励み合い、これからの学びが守られることを祈ります。3月23日(日)には卒業感謝礼拝を予定しており、祝福のうちに教会から送り出されます。神様が2人とこれからも繋がり続けてくださることを信じ、新天地での豊かな日々をお祈りいたします。



洗礼式



子ども祝福式

9月はバザーも開催されました。準備日や当日を通して、地域の方と、そして教会員どうしても、良い交わりが生まれます。これで教会を知ってもらうきっかけにもなるのですから、一石で何鳥も得れるようです。多くのご協力に感謝します。

10月27日(日)には宗教改革礼拝、11月3日(日)には全聖徒主日礼拝が守られました。宗教改革礼拝後には、祝会も行い、牧師

企画のルタークイズに皆さん楽しんで参加してくれました。全聖徒主日礼拝には、先に召天された方々と共にみ国に与っていることを覚えることができました。写真を見て、思い出を伺って、多くの方々に支えられてきた教会の歴史が見えるようでした。また24日(日)には子ども祝福礼拝が守られました。皆で成長に感謝し、祝福を祈ることができました。

クリスマスは12月22日(日)の主日と、24日(火)のイブの2回の礼拝が守られました。主日礼拝の後に行われた祝会では、くじ引きで役を決めて即興の朗読降誕劇。笑いあり、かわいい羊ありの楽しい時間でした。イブ礼拝ではゴスペルサークルMSCが賛美の奉仕をしてくださり、暗く寒い夜に、喜びの光が訪れたのだと実感するようでした。



召天者記念礼拝



バザー

年明け早々には、長年函館教会で信仰生活が続けておられた荒木眞美子さんが天に帰られ、葬儀が守られました。また、佐々木赫子先生の召天の知らせも受けました。ご遺族と連絡がつかず、詳しいことがお聞きできないことは悔しく、残念なことです。

今、函館教会は、新たな宣教の歩みを共に見据えています。2025年の主題は「主と共に堅く立つ」、ヨシュア記の「強く雄々しくあれ」という言葉を胸に、変化の多いこの時代にも主

に頼って歩み続けてまいります。最近では2月末に映画会が開かれ、「アメイジング・グレイス」を皆で視聴しました。主と友に頼りながらイギリスの奴隷制度廃止と戦った主人公ウィルバーフォースの姿は、私たちの信仰の励みとなりました。ゴスペルでも歌われるアメイジング・グレイスの歌詞のように、罪多き私たちにも恵みを与えてくださる主に頼って歩んでいきましょう。

(河田礼生)



【恵み野教会】

9月23日(月/祝)に5年ぶりとなる教会バザーが行われました。久しぶりの開催、かつ働き手も減っている中で、規模をやや縮小することにはなりましたが、教区内の各教会からの協力と恵み野教会の皆の頑張りのおかげで、できる形での良いバザーを守ることができました。当日には70名近くの来場者がありました。また、案内のため、地域のFM放送「e-niwa」にも出演させていただいたことは、良い経験でした。来場された中に「5年間、待っていたのよ」とおっしゃる方がおられたのは、とても嬉しいことでした。献品や売り子のご協力、また立ち寄ってくださった道内教会の皆様感謝いたします。



バザー

10月に入ると、私にはすでに冬を迎えたのかと思うくらいの冷え込みでしたが、教会では宗教改革主日礼拝と全聖徒主日礼拝が守られます。特に全聖徒主日の礼拝では、遠方にお住いの方など、普段は来られない方も共に会堂に集まり、共に召天者を覚えることができました。礼拝後には茶話会も行い、お互いの信仰を励まし合うような良い交わりの時間を過ごすことができました。

11月16日(土)には例年通り、子ども祝福礼拝を守りました。残念ながら、普段から通う子どもはいない恵み野教会ですが、この日は教会員のお孫さんが1人来られ、礼拝の中で祝福を祈ることができました。プレゼントのためのキャンディレイ作りは初めてでしたが、これが結構楽しい作業でした。あまったプレゼントは手元に保管し、最後には2月1日(土)に久しぶりに来たお子さんへお渡しして、完売となりました。



クリスマスフェスタ →

クリスマス関連では、12月7日(土)の礼拝後にクリスマスフェスタ&ミニバザー、20日(金)に燭火礼拝、21日(土)にクリスマス主日礼拝、25日(水)に降誕日夜礼拝が守られました。クリスマスフェスタは地域の方々にご出演いただいたの音楽会です。歌やハーモニカ、フルートやエアロフォンなど様々なタレントを持った方が演奏してくださり、楽しい時間を過ごしました。教会からは賛美歌の合唱や、クリスマスメッセージなどを行い、地域の方にクリスマスの恵みと喜びを伝える良い機会にもなりました。燭火礼拝と夜礼拝は、ろうそくに囲まれ、静かな中で恵みを受け取ることができました。反対に、主日の礼拝後には祝会を開き、楽しくお祝いをいたしました。クリスマスビンゴをしながらのプレゼント交換は大盛り上がりでした。持ち寄られた料理もとても美味しかったです。

年があけて、教会総会は1月25日(土)に行われました。一年間の教会の歩みと、私にとっては一年目の牧会生活が振り返られました。今年の主題は「祈り委ねる」と定め、新たな宣教の歩みを祈りのうちに踏み出しました。



燭火礼拝

3月5日(水)には灰の水曜日礼拝が守られ、現在はイースターに向けて、神様に立ち帰る時を過ごしています。礼拝する場所は違えど、一人の神様に共に向かって参りましょう。(河田礼生)

【札幌教会】

9月29日の礼拝後、札幌礼拝堂ではひさしぶりにBBQ会が行われました。年配の方々も少なくないためにコロナ下においては会食の難しい礼拝堂でしたが、この日は好天にも恵まれ、十数名の会員が、BBQだけでなくポータブルピザ窯で焼く本格的なピザも堪能しました。



バーベキュー



婦人会ミニ修養会

10月3日、札幌礼拝堂の婦人会は北大博物館にミニ修養会に出かけました。北大博物館は理系から文系までのとても幅広い展示内容が特徴ですが、北海道大学は、前身が札幌バンドを生んだ札幌農学校であることから、北海道のキリスト教人脈についても豊かに感じる事が出来るひとときでした。広くてきれいなキャンパスでかわいいリスを眺めたり、学食でランチをいただいたり、北海道の美味しいソフトクリームを楽しむなど、学生に戻ったかのようなひとときを味わいました。

10月26日、北礼拝堂では野村陽治さんの洗礼式と菱山朝子さんの転入式が行われました。野村さんは、もともとはネットクリスチャン(自称)であったとのことですが、会員の島貫さんの紹介でルーテル教会につながり、半年間の学びの期間を経て宗教改革記念日に嬉しい洗礼式となりました。家屋や施設の設計がお仕事で、趣味は野球の応援。目下そのためのトランペット猛練習中です。菱山さんは若い頃に北見ルーテル教会で受洗。結婚してからは少し教会と距離のあった時期もあったそうですが、縁あって北礼拝堂の礼拝につながりました。ご希望もあってもういちどルター派の教えについて学びを深めたうえで、この日の転入式となりました。礼拝後に、にぎやかに歓迎の愛餐会が催されました。



歓迎愛餐会

12月18日、金谷善敬さんがご自宅で洗礼を受けられました。金谷善敬さんは、ご伴侶である札幌礼拝堂の金谷睦子さんの信仰生活を、ながく側面から支援してこられました。ところが昨年秋に病が発覚し、冬には自宅での療養生活にはいられました。牧師が訪問しておすすめしたところ、神さまに全てを委ねられることを決意され、その場で受洗。初陪餐も経験なさいました。ところが、その日の牧師の帰宅後に病状が悪化。まるで神さまが受洗の時を待っておられたかのように、その日のうちに天へと召されることとなりました。20日には札幌礼拝堂でご葬儀が行われ、もっとも新しい信仰の仲間を神さまのもとへとお送りしました。

札幌教会のクリスマスは、まず12月21日に北礼拝堂で礼拝と祝会が行われました。祝会では、毎月集会室を使っているシルバーサロンの方々のトーンチャイム、夏に札幌礼拝堂でコンサートを開催されたジャズベーシストの金澤英明さん(めばえ幼稚園出身)はベースを抱えて飛び入り参加。40人を超える参加者に、集会室が手狭に感じられるほどの賑やかなクリスマスとなりました。



金澤英明さん

翌日の札幌礼拝堂のクリスマスでは、まず最初に教会学校の子もたちがクリスマスの礼拝を祝いました。礼拝後は、短い時間でしたが礼拝堂でゲームやクイズなどでお祝い会をしました。その後の降誕主日礼拝では、鈴木友美さんの洗礼式、山下陽子さんの転入式が行われました。鈴木友美さんは昨年転入なさった鈴木友洋さんのご伴侶で、学びを続けてこの日の洗礼式となりました。イラストレイトをお仕事になさっておられ、すでに夜の教会学校等でも、その技術でご奉仕下さっています。スオミホールに移動してからの祝会では、サンドイッチをベースに手作りのおかずやおやつも並び、テーブル対抗のゲーム大会などで盛りあがりました。



教会学校クリスマス

新札幌礼拝堂のクリスマス行事は、アドベントコンサート(12月1日)で幕を開けました。コンサートといっても出演者も聴衆もいつものメンバーです。靴屋のマルチンの朗読劇の後、牧師からのショートメッセージを聞きました。そこでの話から、クリスマスの祝会には是非とも「チキンカレー」となり、22日の主日礼拝後はコロナ禍以降初めての手作り会食を愉oshimしました。



アドベントコンサート

また、24日には3礼拝堂がともに札幌礼拝堂に集まって、クリスマスイブ特別礼拝を守りました。ロウソクの灯に照らされつつ、心静かにキリストの誕生を祝うひとときとなりました。



クリスマスイブ特別礼拝

年が明け、1月26日には札幌礼拝堂婦人会の最後の総会が行われました。といっても、婦人会がなくなってしまうわけではなく、婦人会は、男女の区別なく愛餐と聖研をともにする会へとリニューアルすることになります。現在は新たな会の名称について協議しているところです。

2月19日、新札幌礼拝堂の十字架が移設されました。昨秋に床が陥没したあと、礼拝堂の一部の使用を停止し、使い方を変更して用いていた

のですが、天井から吊してある十字架に正対して礼拝できずにいたのです。それでもかかえている問題の解決にはなっていないのですが、さしあたって落ちついて礼拝できる形に収まったのではないかと思います。



新札幌礼拝堂

最後に、札幌礼拝堂の建物調査について報告します。札幌市のふたつの補助金を得て、献堂91年の礼拝堂の歴史的背景と構造的な安全度を調査する事業が行われました。前者の歴史調査では、建物の由来と魅力を伝えるリーフレットが作成されたほか、先月から3つの礼拝堂それぞれで「景観まちづくり講演会」が開催され、建物調査にあたって下さった村口郁美さん(atelier hippo)から、札幌礼拝堂のルーツにかかわるV.サオライネン先生と内田平次郎氏さんについてのお話などを伺うことが出来、礼拝堂の魅力を再確認するときとなりました。

(小泉基・岡田薫)



まちづくり講演会

【帯広教会】

帯広教会では牧師の呼びかけに賛同する有志がカンパを集め、2020年から定期的に渋谷に「月寒あんぱん」をお送りしています。コロナ禍中で様々な活動自粛が実施されていく中で、物産展中止で在庫過多になった北海道の食べ物と保存食を求めておられた「ちかちゅう給食活動」の橋渡しをした形ではじまりました。いつの日か、ボランティアの皆さんから直接お話を伺いたい願っていたところ、9月28日(土)に責任者の久保彩奈さんはじめボランティアの若者たちが帯広ツアーと称して来会してくださることになったのです。この日は主日礼拝を「ディアコニア礼拝」として行い、若い方々の熱意や思いをおわかしいただき励まされました。



ちかちゅう給食活動ボランティアの皆さんと

10月に入ると十勝豆のシーズン到来です。担当者が変更となり、慣れないながらも協力し合って準備をはじめました。また久しぶりの教区修養会には大勢で参加することができました。久しぶりにお目にかかる方、初めてお会いする方々、広い北海道の中にルーテル教会に連なる多くの仲間たちがいることを嬉しく思うひとときでした。

11月は全聖徒主日の礼拝に久しぶりの方がおいでになって記念撮影。それからは、お豆の仕入れ、袋詰め、注文受付、発送と礼拝後のみならず、聖書の学びやお仕事会など、教会に集まっては作業を行います。間に牧師の休暇や担当者の不在もあって、バタバタしてしまうことも

ありましたが、多くの方々に十勝の美味しいお豆をお届けすることができました。ただ、休暇から戻った牧師がコロナに感染してしまったため、2週連続で信徒礼拝となったことは予想外でしたが、役員を中心に柔軟に対応できたことは良かったです(年末にお豆の受付ミスが1件見つかって慌てて発送したことは反省点でした)。

12月は雪が少なく、クリスマス気分も盛り上がりがない日々でしたが、当日までには雪が降り浦幌集会に行く道すがらはちょっとした吹雪にもなりました。ほんの数十キロ離れているだけでもお天気がガラッと変わるので、長距離ドライブも苦になりません。24日の降誕祭燭火礼拝には、池田教会ゆかりの方がたくさんのカボチャを献品してくださったり、召天された教会員のご親族が礼拝へ出席してくださったりと、時間と空間を超えた教会の温かい交わりをしみじみ感じました。



浦幌・釧路・帯広のクリスマス



1月に入るとあっという間に教会総会の準備です。日々のルーティンをこなしているようではあっても、釧路、浦幌、帯広と各拠点での礼拝が1年間守られたこと、折に触れて施設や遠方の方をお訪ねしたこと等、過ぎた日々たくさんの恵みと祝福があったことに気づかされました。

2025年に取り組むのは、教会に興味があってもなかなか入って来られない方に向けて、教会の敷居を低くするためにはどうしたらいいかという課題です。これは長年の懸案事項なのですぐに解答が得られるわけではありません。まずはここに教会があり、あなたのために開かれた場所であるこ

とを周知することから始めようと、新しい掲示板と看板を春に設置する予定で動いています。というのも、十数年前に車が飛び込んでくるという事故の影響で看板は倒れ、それを壁に立てかけたままでしたので危険なのです(T字路にあるため、このような事故は数年前にもありましたが、その時はベンチの破損だけで済みました)。掲示板は少し小ぶりのものにして、花壇も整備して・・・と2月の災害級のドカ雪から小さくなった雪山を眺めつつ、春を心待ちにしているところです。

(岡田薫)



札幌教会新役員



帯広全聖徒主日



恵み野教会クリスマス

教勢動向 (2024年12月－2025年2月)

函館教会 召天：荒木眞美子(1月11日)、佐々木赫子(1月12日)

札幌教会 受洗：金谷善敬(12月18日)、鈴木友美(12月22日)
召天：金谷善敬(12月18日)
転入：山下陽子(12月22日)
転出：矢野広枝(網走聖公会2/9)